① 鞘町（さやちょう）

刀剣の鞘を作る職人"鞘師"が住んでいた区域。

町内には研師（とぎ）、柄巻（つか まき）師、彫金師など刀剣関係職も住んでいたといわれています。

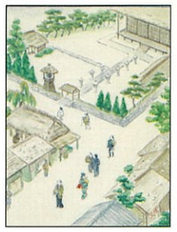
② 木挽町（こびきちょう）

材木屋に雇われて製材をする木挽職人の住んでいた区域。

隣りの材木町にも木挽職人が住んでいたといわれています。

③ 裏宿（うらじゅく）

屋敷町の中でも大名小路に次いで比較的高い階級の武士が住んでおり、古街道の裏通りに面した「宿」であったことからこの名があります。



⑦ 広済町（ひろすみちょう）

徳川綱吉が城主であったころ、黄檗宗（おうばくしゅう）の僧・釈潮音（しゃくちょうおん）を招いて創建した「広済寺（こうざいじ）」に由来すると伝えられています。

⑧ 並木町（なみきちょう）

館林城の前身とされる青柳城下で並木のある大通り筋にあり、館林に移る際に町名を踏襲しました。

館林では並木はなかったといわれています。

⑨ 台宿（だいじゅく）

「宿」は外からの職人や行商人などの住まいで「宿場」等に通ずる言葉。

城下東北の高台に位置した事から台宿と呼ばれたと考えられます。

⑬ 目車町（めぐるまちょう）

この地が湿地帯のため巡り巡って迂回しなければならないことからついたといわれています。

南側には「小泉口御門」がありました。

⑭ 鷹匠町（たかじょうまち）

鷹匠は鷹狩りに使う鷹を訓練し、狩りに従事する役人の事。

この鷹匠が居住していたことにちなんでつけられたこの街は城内にありました。

⑮ 大名小路（だいみょうこうじ）

徳川綱吉が城主の頃、大名と同格の重臣邸宅があり、こう呼ばれました。

大手門から郭（くるわ）内に通じた通りに面し、城内の主要道路にあたります。

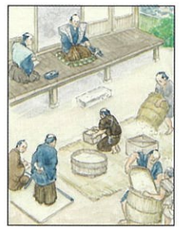
⑲ 外加法師（そとかぼうし）

加法師のうち、御門の外側にある区域。

⑳ 片町（かたまち）

大手門に面する通りの片方に広がる町人街を指します。

大手門に接したこの地を境に城内と町人街とを分けました。



㉑ 代官町（だいかんちょう）

代官の居住した地域であったことからこう呼ばれたと伝えられます。

古地図によれば２つの代官町があり、城内の代官町に対し元代官町とも呼ばれました。

㉕ 肴町（さかなちょう）

肴町は商人町の一つで、「肴」は「魚」を意味します。

魚商の住む町であったことからこう呼ばれました。

㉖ 谷越町（やごえちょう）

城下町整備の折、谷越村の住民を移住させたことに由来します。

「谷越」とは、低湿地（谷地（やち））を越えて往来する意味があります。

㉗ 金山（かなやま）

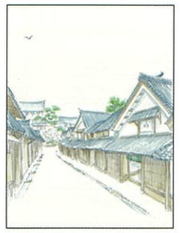
「金山」は鍛冶職人や製鉄関係者が信仰した「金山毘古命（ひこのみこと）」にかかわる地名。

この神を祭る金山神社があります。

④ 石町（こくちょう）

米穀商があったことから起こった町名で「石」は米の数量を表す言葉です。

古くは「横町」と呼ばれていたと伝えられています。



⑤ 竪町（たつまち）

大手門に縦に向かう本通りに沿った町並みの事を指し、「横町」に対し「縦＝竪町」と呼ばれたと考えられています。

⑥ 大工町（だいくちょう）

大工職人が住んでいたことから起こった町名。

寛文から延宝にかけて17軒の大工職があった、と伝えられています。

⑩ 本紺屋町（ほんこんやちょう）

藍（あい）染を行なう染物屋を"紺屋"といい、染物にかかわる人々が住み、「本紺屋町」は古くから発展していたと考えられます。

⑪ 新紺屋町（しんこんやちょう）

「本紺屋町」から新しく広がった紺屋町をこう呼んだと考えられます。

⑫ 鍛冶町（かじちょう）

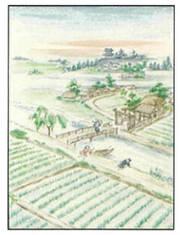
鉄を鍛えて刀剣や包丁、鎌、鍬などを作る「鍛冶職人」が住んでいた町。

町の南には、彼らの信仰していた「金山毘古命（ひこのみこと）」を祀る金山神社がありました。

⑯ 内伴木（うちばんき）

伴木の語源は「晩帰橋（ばんきばし）」や、合図などで使う「板木（ばんき）」に由来するなどの説があります。

内伴木は伴木の中で、「喰違（くいちがい）」という城門の内側を指します。



⑰ 外伴木（そとばんき）

「喰違（くいちがい）」の外にあり城の中心より遠いところにある伴木という意味でこう呼ばれました。

⑱ 加法師（かぼうし）

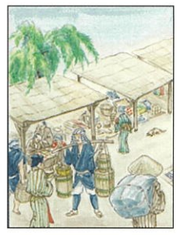
加法師の語源は定かではありませんが、「ぼう示（じ）」は境界を示します。

館林城築城以前からの地名ともいわれ、城下町出入口に「加法師口御門」があります。

㉒ 材木町（ざいもくちょう）

材木を取り扱う材木職人や材木問屋が所在したことに由来する商人町。

材木にかかわることから隣り合った木挽町（こびきちょう）と深い縁があります。



㉓ 連雀町（れんじゃくちょう）

「連雀」とは荷を背負う時に使う荷縄などの道具で、後に荷を背負い売り歩く行商人を指すようになります。

この行商人の集まった場所の意に由来します。

㉔ 塚場町（つかばちょう）

近くに古墳があったことに由来する説と、古街道であったこの通りに一里塚があったことに由来する説があります。

㉘ 足利町（あしかがちょう）

戦国時代、館林城主長尾顕長（ながおあきなが）が城下町建設に伴い、足利から技術者を招いて住まわせたことからついたといわれています。

城下町たてばやし　町名由来

発　　行　館林市教育委員会文化振興課
〒374-0018 館林市城町3-1
ＴＥＬ 0276-74-4111
発行年月日　平成24年3月31日

【参考文献】
●「近世館林藩の大名」（昭和63年刊）館林市教育委員会　発行